

令和7年度学校運営連絡協議会実施報告書

東京都立板橋高等学校

1 組織

- (1) 都立板橋高等学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）
- (2) 事務局の構成 教諭(保健庶務部主任)=事務局長、副校長 計2名
- (3) 内部委員の構成
校長、副校長、経営企画室長、教務主任、生活指導主任、進路指導主任、保健庶務主任、3学年主任、2学年主任、1学年主任、 計10名
- (4) 協議委員の構成
学識経験者（大学教授）、近隣中学校長（1名）、近隣町会会長、本校同窓会会長、本校PTA副会長 3名 計7名

2 令和7年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日時、出席者、内容、その他
第1回 令和7年7月9日（水）
内部委員10名、協議委員6名
協議委員委嘱、委員紹介、評価委員の選出
学校経営計画、前年度の学校運営連絡協議会の課題
本校の現状と課題等説明、意見交換
第2回 令和7年12月10日（水）
内部委員10名、協議委員6名
今年度教育活動に関する報告、協議委員からの質問・意見、学校評価アンケート内容の検討
第3回 令和8年3月18日（水）
内部委員10名、協議委員4名
学校評価アンケート結果報告及び学校運営に関する提言・協議
次年度に向けた方向性の確認
- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他
第1回 令和6年12月10日（水）内部委員1名、評価委員2名
学校評価方針の確認、学校評価アンケート実施計画の確認、同アンケート観点・項目等の検討
第2回 令和8年3月18日（水）内部委員2名、評価委員2名
学校評価アンケート集計結果の分析・考察、課題の整理

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

- (1) 学校評価の観点
「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施する。
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模
R7 (R6)
・12月 全校生徒 対象：851人 回収：742人 回収率： 87% (78%)
・12月 保護者全員 対象：851人 回収：541人 回収率： 64% (67%)
・12月 地域・住民 対象： 25人 回収： 19人 回収率： 76% (33%)
・12月 教職員 対象： 44人 回収： 44人 回収率： 100% (100%)
- (3) 主な評価項目
・学校運営、学習指導、生活指導、進路指導、特別活動・部活動、健康・安全、ライフワーク・バランスの推進
- (4) 評価結果の概要
※ 生徒・保護者・教員の肯定的回答の比較
①よくあてはまる ②まああてはまる ③あまりあてはまらない ④全くあてはまらない
の4択でアンケートを行い、「①よくあてはまる」、「②まああてはまる」を肯定的回答として集計を行った。 ※数値は、今年度の割合（昨年度の割合）を表している。

- 1 私は、学校生活に満足している。（生徒）
生徒は、学校生活に満足している。（保護者）
学校は、生徒の学校生活満足度を高める取組をしている。（教員）
生徒： 89.8% (87.9%) 保護者： 90.4% (86.6%) 教員： 84.1% (87.2%)
- 2 私は、主体的に学習に取り組んでいる。（生徒）
生徒は、主体的に学習に取り組んでいる。（保護者）

- 生徒は、主体的に学習に取り組んでいる。(教員)
生徒： 83.7% (78.5%) 保護者： 64.7% (63.1%) 教員： 68.2% (59.5%)
- 3 私は、授業での学習内容を理解し、定期考査等にきちんと取り組むことができている。(生徒)
生徒は、授業での学習内容を理解し、定期考査等にきちんと取り組むことができている。(保護者)
生徒は、授業での学習内容を理解し、定期考査等にきちんと取り組むことができている。(教員)
生徒： 84.5% (77.6%) 保護者： 71.7% (70.1%) 教員： 77.3% (80.8%)
- 4 先生は、生徒の学力向上を図る授業を行っている。(生徒)
学校は、生徒の学力向上を図る授業を行っている。(保護者)
学校は、生徒の学力向上を図る授業を行っている。(教員)
生徒： 83.4% (83.8%) 保護者： 77.1% (74.0%) 教員： 84.1% (89.4%)
- 5 本校の学校行事や生徒会活動は充実している。(生徒)
本校の学校行事や生徒会活動は充実している。(保護者)
学校は、学校行事や生徒会活動の充実を図る指導を行っている。(教員)
生徒： 87.2% (88.1%) 保護者： 91.1% (89.7%) 教員： 97.7% (85.1%)
- 6 本校の部活動は充実している。(生徒)
本校の部活動は充実している。(保護者)
学校は、部活動の充実を図る指導を行っている。(教員)
生徒： 88.5% (87.4%) 保護者： 84.1% (82.3%) 教員： 95.5% (87.2%)
- 7 私は、遅刻をしないように時間を守っている。(生徒)
生徒は、遅刻をしないように、時間を守っている。(保護者)
学校は、時間を守る指導を行っている。(教員)
生徒： 88.3% (87.8%) 保護者： 82.9% (83.2%) 教員： 75.0% (91.5%)
- 8 私は、高校生としてふさわしい身だしなみができている。(生徒)
生徒は、高校生としてふさわしい身だしなみができている。(保護者)
学校は、高校生としてふさわしい身だしなみ指導を行っている。(教員)
生徒： 96.5% (95.8%) 保護者： 85.8% (82.4%) 教員： 75.0% (80.9%)
- 9 私は、学校に相談したい時、気軽に相談することができている。(生徒)
保護者として学校に相談したい時、気軽に相談することができる。(保護者)
教職員は、生徒や保護者からの相談に丁寧に対応している。(教員)
生徒： 77.6% (73.7%) 保護者： 71.7% (61.9%) 教員： 97.7% (91.5%)
- 10 学校は、生徒の進路希望実現に向けた指導を行っている。(生徒)
生徒の進路希望実現に向けた指導を行っている。(保護者)
学校は、生徒の進路希望実現に向けた指導を行っている。(教員)
生徒： 91.5% (89.2%) 保護者： 80.2% (76.1%) 教員： 93.2% (91.5%)
- 11 学校は、いじめ問題解決に向けた指導を行っている。(生徒)
学校は、いじめ問題解決に向けた指導を行っている。(保護者)
学校は、いじめ問題の解決に向けた指導を行っている。(教員)
生徒： 82.5% (83.0%) 保護者： 80.4% (71.7%) 教員： 97.7% (91.5%)
- 12 学校は、体罰根絶に向けた指導を行っている。(生徒)
学校は、体罰根絶に向けた指導を行っている。(保護者)
学校は、体罰根絶に向けた指導を行っている。(教員)
生徒： 84.1% (86.2%) 保護者： 88.0% (83.7%) 教員： 93.2% (91.5%)
- 13 学校は、保護者と連携を図っている。(保護者)
学校は、保護者との連携を図っている。(教員)
保護者： 70.1% (68.1%) 教員： 95.5% (93.6%)
- 14 オンライン学習デーには、自宅でオンライン授業に取り組むことができている。(生徒)
オンライン学習デーには、生徒は自宅でオンライン授業に取り組むことができている。(保護者)
学校は、生徒が自宅でオンライン授業に取り組むことができる体制を整えている。(教員)
生徒： 93.3% (92.2%) 保護者： 85.8% (84.6%) 教員： 68.2% (63.8%)
- 15 学校は、教職員のライフ・ワーク・バランス実現のため、学校閉庁日の設定、勤務時間の複数割振り、校務支援システム・部活動指導員・テレワーク導入等、業務の効率化を推進している。
(保護者)
学校は、教職員のライフ・ワーク・バランス実現のため、学校閉庁日の設定、勤務時間の複数割

振り、校務支援システム・部活動指導員・テレワーク導入等、業務の効率化を推進している。
(教員)

保護者： 89.1%(84.4%) 教員： 79.5%(57.5%)

- 16 授業外（補習予備校なども含む）での1日の平均学習時間（定期試験前を除く）は次のうち、どれですか？（生徒）

お子様の、授業外（補習や予備校なども含む）での1日の平均学習時間（定期試験前を除く）は次のうち、どれですか？（保護者）

3時間以上	生徒： 12.0%(4.1%)	保護者： 4.4%(4.0%)
1時間以上3時間未満	生徒： 15.2%(11.0%)	保護者： 18.1%(20.2%)
30分以上1時間未満	生徒： 12.7%(12.3%)	保護者： 20.7%(17.4%)
30分未満	生徒： 8.2%(7.2%)	保護者： 10.7%(8.5%)
定期試験前のみ自宅で学習する	生徒： 43.4%(54.3%)	保護者： 41.6%(43.6%)
定期試験前もほとんど自宅学習はしない	生徒： 8.5%(11.1%)	保護者： 4.4%(6.3%)

- 17 特別進学クラスについてどう思いますか？（複数回答可）（生徒）

特別進学クラスについてどう思いますか？（複数回答可）（保護者）

大学進学に有利	生徒： 21.4%(19.4%)	保護者： 31.9%(33.2%)
クラスが落ち着いている	生徒： 27.4%(25.0%)	保護者： 21.3%(20.5%)
クラスに勉強する雰囲気がある	生徒： 28.2%(28.3%)	保護者： 28.0%(30.1%)
他のクラスより授業進度が速い	生徒： 12.2%(12.0%)	保護者： 7.1%(6.7%)
他のクラスより授業内容が難しい	生徒： 10.8%(15.3%)	保護者： 11.6%(9.5%)

【地域】 A そう思う B ややそう思う C あまりそう思わない D そう思わない E わからない

- 1 板橋高校の生徒は、生き生きとした学校生活を送っているようだ。

A 31.6%(0%) B 52.6%(50%) C 5.3%(25%) D 0%(0%) E 10.5%(25%)

- 2 板橋高校は、学校行事や部活動に活気があるようだ。

A 52.6%(12.5%) B 47.4%(37.5%) C 0%(25%) D 0%(12.5%) E 0%(12.5%)

- 3 生徒は、高校生としてふさわしい身だしなみができていると感じる。

A 5.3%(12.5%) B 47.4%(25%) C 26.3%(12.5%) D 15.8%(50%) E 5.3%(0%)

- 4 学校は地域の意見や要望を取り入れ、適切に対処している。

A 5.3%(12.5%) B 21.1%(12.5%) C 26.3%(25%) D 15.8%(25%) E 31.6%(25%)

- 5 板橋高校は、教職員のライフ・ワーク・バランス実現のため、学校閉庁日の設定、勤務時間の複数割振り、校務支援システム・部活動指導員・テレワーク導入等、業務の効率化を推進している。

A 0%(0%) B 26.3%(12.5%) C 0%(0%) D 0%(0%) E 73.7%(87.5%)

アンケートは生徒、保護者、教員はWebで、地域は紙面を用いた。生徒の回収率が昨年度比9ポイント上昇したのは各HRで繰り返し回答を促した結果であるが、できる限り全員回答に近づけるべく指導していく必要がある。地域の回答率は町会長の尽力もあり回答数・回答率ともに向上した。

昨年度との比較では、生徒からの評価は質問13項目中9つで肯定的評価の増加が見られた。「授業内容の理解と定期考査への取組み」が6.9ポイント増、「学習への主体的な取組み」が5.2ポイント増であり、他の項目はいずれも3.9ポイント増から2.1ポイント減の微増微減であった。

保護者からの評価は15項目中14項目で肯定的評価が増加した。もっとも向上したのが「学校に気軽に相談できる」の9.8ポイント増、唯一下がったのが「生徒は時間を守っている」0.3ポイント減であった。また、質問項目によっては「わからない」と回答したかった、との意見も見られたため、次年度の選択肢に「わからない」を追加することを検討する。

教員では15項目中9項目で肯定的評価が増加した。上は「ライフワークバランスのための業務効率化」が21.2ポイント増加、下は「学校は時間を守る指導を行っている」が12.7ポイント減少した。

- 1 生徒、保護者の満足度が微増している。体育祭や文化祭が感染症対策の制限なく開催されたことが要因と考えられる。教員は微減であるが、80%代半ばの高い評価である。
- 2 1年生の入試倍率が高く、学習意欲の高い層が入学していることが考えられるが、生徒の評価と保護者および教員の評価には15ポイント以上の差異があり、大人は生徒が思っているほど勉強しているとはとらえていないことがわかる。
- 3 2と同様、生徒の自己評価と大人の評価に差異がある。学校としては「わかる授業、生徒の興味・関

心を高める授業」を引き続き推進していく。

- 4 生徒評価は横ばい、保護者が微増、教員が減少傾向にあった。ICT機器を活用した授業の工夫、一人1台端末を活用したWebテストや学習動画視聴等の自学自習支援、教員と生徒の問答の工夫による対話的で深い学びの実践等が行われているが、これらの不得手な教員の自己評価が低かった可能性がある。
- 5 感染症対策による制限のない学校行事や、生徒主体で開催された生徒総会や生徒会役員選挙、また日頃の生徒会の活動が生徒からの評価を安定させていると考えられる。
- 6 生徒、保護者の評価は横ばいだが、教員の評価が向上している。陸上競技部のほか、文化部が聞く大会等で成績をあげ、始業式等で表彰されている姿が印象的だったと考えられる。
- 7 校長が遅刻対策のため各クラスの遅刻者数を全教員に公表したことにより、実態を把握した教員は遅刻指導の不足を感じている。教員はチャイム始業を実施し、遅刻の減少に力を入れている。一方、遅刻する生徒の固定化がみられており、家庭の協力を得ながら、さらに遅刻指導を進めていく必要がある。
- 8 生徒の肯定的評価が、保護者より10ポイント、教員より20ポイント近く高い。生徒はきちんとしていると思っているが、大人の目からはそうは見えていないことがうかがえる。今後も生活指導部を中心とし、保護者と連携しながら、組織的・継続的な指導に取り組む必要がある。
- 9 コンディション・レポートやClassiの通信機能を併用し、生徒のメンタルヘルスマネジメント、健康観察に取り組んでいる。保護者の評価は9.8ポイント向上したのは、Classiでの欠席連絡に慣れてきたことや、投書箱を作成したことが要因として考えられる。
- 10 学校推薦型選抜、総合型選抜で行われる面接や小論文の指導に全教員が当たっている。このことが生徒・保護者の評価を押し上げたと考えられる。今後は一般選抜に挑む生徒の学力向上を図る指導にさらに力を入れていく必要がある。
- 11 日常の生徒観察や年間3回のいじめアンケート実施を通して、いじめを見逃さない取組を行っている。
- 12 日常の校内研修を通して生徒への体罰・暴言の禁止を徹底するとともに、教員の人権感覚向上に努めている。
- 13 紙面で配布するお知らせ等が保護者の手元に届かないことがあるのでClassiでの配信を併用するなど工夫している。一方、三者面談等を増やしてほしいとの要望もあることから、より緊密な情報交換の場を設定していきたい。
- 14 今年度は全学年に一人1台端末が整備された2年目にあたる。日常的に端末の利用をする授業も増えつつあり、オンライン学習デーの家庭での端末利用も増加している。
- 15 保護者には学校の各種取組が周知されている一方、地域には知られていない。各種取組について教員の理解や活用が進んでいることが、教員の肯定的評価の大幅な増加につながっている。
- 16 「3時間以上授業のほかに学習している」と回答した生徒が12%と昨年度の3倍であった。「定期試験前のみ勉強する」生徒が11.9ポイント減っていることから、回答間違いが疑われるが、これが誤りでないのであれば大変喜ばしいことである。「定期試験前のみ勉強」する生徒は43.4%おり、保護者の感覚と一致する。週末課題（宿題）等の活用など、自宅等での学習習慣をつけることが希望進路の実現につながることを意識させる指導を強く行う必要がある。
- 17 大学進学に向けた学力向上、互いに高め合う学習集団の形成を意図した特進クラスの運営に引き続き、取り組んでいく。また、指定校推薦ではなく、より上位の進学先を目指して一般受験に向かわせる指導がさらに必要である。

地域

「生徒が生き生きしている」84.2%、「学校行事や部活動に活気」100%と、生徒の元気は地域に伝わっている反面、「身だしなみができている」は52.7%と評価は低調である。今年度より生活指導に力を入れ始めているので、改善に期待をする。一方、ライフ・ワーク・バランスの質問は「わからない」が73.7%を占めた。地域からするとあまり関心がないであろうことも含め質問項目からの除外を検討する。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題（学校の自己評価へ反映）

（1）学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ・本校の教育活動についての意見交換と、学校評価アンケート結果についての分析や考察により、学校の取組みの成果と今後の方向性が明確になった。
- ・学校の外から見えづらくなっている生徒の様子や教育活動について理解と共感、要望や課題を確認する貴重な情報交換の場となった。
- ・生徒による近隣清掃や挨拶運動など、地域社会から好意的な声が上がっていることを再確認することができた。一方、身だしなみや登下校時の生徒の様子について、地域からの要望を聞くことができた。

（2）学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ・進路指導については、生徒の実態や特性に応じて総合型選抜や学校推薦型選抜に対応することができたが、一般入試で対応するレベルの学力の向上を、より組織的に対応する必要性を確認した。
- ・生徒の実態に応じて、同窓会やPTA等と連携した進路講演会やワークショップを実施する等、系統的なキャリア教育を推進する必要があることが分かった。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項（学校経営計画へ反映）

（1）学校運営

地域行事や地域防災訓練に参加したり、学校で実施する防災訓練で町会等とタイアップしたりする等、地域と一体となった学校経営に取り組む必要がある。

分掌内外で教員が協力していく機運を醸成し、学校組織力の向上を図る。

（2）学習指導

「生徒に考えさせる」指導を推進し、授業での生徒への発問と生徒からの発言から「何ができるようになったか」を意識して授業改善を図っていく。また、自学自習をいかにして習慣付けていくか動機付けを工夫する。

（3）特別活動

生徒の主体的な取組を行わせるために、教員がこまめな指導・支援が必要である。いかにして生徒への動機付けをしていくかを試行錯誤していく。

（4）生活指導

身だしなみ指導の推進により、規律を意識して生きていく力を心がけさせる。

生徒には自律を教え、褒めて個性を伸ばす、探究学習を充実させ、生徒の自律の芽を育てる。

学校の教育相談体制は整備されてきた。生徒からみて相談できる先生にアクセスしやすい体制を構築するとともに、保護者への理解の輪を広げていきたい。

（5）進路指導

系統的なキャリア教育を模索し、生徒が自身の適性を踏まえた選択に資するよう、学校としての体系的な取組を行っていく。

第一希望実現に向けての組織的な体制を更に改善し、個に応じた指導の更なる充実に努める。

（6）健康・安全

ライフ・ワーク・バランスについて、引き続き業務の効率化を推進していく。

6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

（1）協議委員人数 7人

（2）学校が良くなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
4	2	1	0	0	0	0

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果 【実績】なし

8 その他

- ・生徒のアンケート回収率をより高めるため、LHR等を利用して担任からの働きかけを強化し、回答した生徒の把握をするなどの対策をする。
- ・地域への情報発信の機会として、ホームページの充実はもとより、校舎外側に掲示板を設置するなど掲示物による情報発信を試みる。